

デル

IPテレフォニーシステムにPoE対応レイヤ2スイッチを提供

デルがワールドワイドでの導入実績を背景に、国内市場でレイヤ2スイッチ「PowerConnect」シリーズを展開。4シリーズ11モデルをラインナップし、小規模から大規模ネットワークすべてに対応する。特に注力するのがPoE対応モデルの「3424P」と「3448P」で、IPテレフォニーソリューションのエッジ製品として拡販を図る。

「PCメーカー最大手のデルは、約3年前からレイヤ2スイッチを手掛けている」エンタープライズマーケティング本部プロダクトマーケティングマネージャーの浦上義一氏はこう語る。デルのレイヤ2イーサネットスイッチPowerConnectは、「ワールドワイドで10万社以上のユーザーに対し、1600万ポート以上の導入実績があり、また、国内で

も既に80万ポート以上の出荷実績がある」という。こうした実績を踏まえ、更なる日本市場への展開に乗り出した。

4シリーズ11モデルを用意

PowerConnectの製品ラインナップは、「PowerConnect 2000シリーズ」「PowerConnect 2700シリーズ」

「PowerConnect 3400シリーズ」「PowerConnect 5000シリーズ」の4つにカテゴライズされている。このうち、2000と2700シリーズが小～中規模ネットワーク向けであり、3400と5000シリーズが中～大規模ネットワーク向けだ。

2000シリーズはシンプルな廉価版スイッチで「2216」「2224」「2324」の3モデルがある。2216は10BASE-T/100BASE-TXを16ポート、2224は24ポートを装備。2324は24ポートの10BASE-T/100BASE-TXに加え、1000BASE-Tを2ポート備えており、ギガビットイーサネットとのアップリンクやサーバーの直接収容を可能としている。

2000シリーズは全ポートで接続先の自動認識やMDI/MDI-Xの自動切り替えができるプラグ&プレイに対応。さらにファンレス静音設計を採用している。

2700シリーズは全ポートギガビットイーサネット(1000BASE-T)対応の廉価版スイッチだ。「2708」「2716」「2724」の3モデルをラインナップしている。

2708と2716はそれぞれ、8ポートと16ポートを装備した小規模ネットワーク用モデルだ。2724は24ポートに加え、SFPスロットを2基装備。オプションの1000BASE-SX/LXの光トランシーバを搭載することで、上位のエッジスイッチやルーター等のレイヤ3機器と光インターフェースで接続できる。2724はスイッチング容量48Gbpsの高性能を実現している点も特徴だ。

2700シリーズは最大64のVLAN、リンクアグリゲーション等の設定をウェブより設定可能な「ウェブマネージメント



PowerConnect3448/3448P

機能」に対応し、空調ファンレスの静音設計など、使い勝手と高性能を追求したモデルだ。

PoE対応モデルを投入

3400シリーズの最大の特徴は、PoE(Power Over Ethernet)に対応したモデル「3424P」と「3448P」をラインナップしている点だ。PoEとはイーサネット配線用ケーブル(カテゴリ5)を利用して電源を供給する機能で、2003年6月に「IEEE 802.3af」として標準化されている。1ポート当たり最大15.4W、1筐体当たり同470Wの電力を供給できる。このため、IP電話機や無線LANアクセスポイント装置、Webカメラ等、電源を取りにくい場所に設置する機器への供給が可能だ。

さらに浦上マネージャーは「オプションで冗長化電源を用意した」と語る。二重化電源装置「EPS-470」を利用することで、スイッチの内蔵電源やAC電源で障害が発生した場合でも、ネットワークの停止を防ぐことができる。

そのほかの特徴も押さえておこう。「3424/3424P」は10BASE-T/100BASE-TXを24ポート、「3448/3448P」は同48ポートを搭載。ともに1000BASE-Tを2ポートと光インターフェースへの切り替えが可能なSFPスロットを2基装備している。

また、1000BASE-Tポートを使用してスタッキングが可能で、10BASE-T/100BASE-TXを最大144ポートまで増設できる。

5000シリーズは、全ポートギガビットイーサネット(1000BASE-T)対応の高機能スイッチであり、「5324」1モデルを用意している。24基のギガビットポートに加え、4基のSFPスロットを装備。SFPスロットは1000BASE-Tとして利用できるほか、2724や3400シリーズと同様に、オプションの1000BASE-SX/LX用光トランシーバを搭載することで、光インターフェースへの切り替えが可能だ。

3400シリーズ、5000シリーズはManagedインテリジェントスイッチにカテゴライズされ、管理者が指定したクライアントのみにネットワークへのアクセスを許可する802.1x準拠のポート認証機能をはじめ、MACアドレスによるポートセキュリティ機能、VLAN、QoS、マルチキャスト、リンクアグリゲーション、管理機能、可用性(スパンニングツリー、ラピッドスパンニングツリー等)など、標準化された機能をサポートしている。

コストパフォーマンスを追求

浦上マネージャーはPowerConnectシリーズについて、「すでに標準化済みの、いわゆる“枯れた技術”しか使用していない」と語る。競合他社の場合、標準化策定中の新技術を先取りしたり、独自の機能を開発することで差別化を図っている。その反面、コスト高になるという課題がある。デルが目指すのは「コストパフォーマンス」であり、そこで差別化を図っている。だからといって「安かろう悪かろう」ではなく、

表 PowerConnectの製品価格

PowerConnect 2216	1万7115円～
PowerConnect 2224	2万0790円～
PowerConnect 2324	2万3100円～
PowerConnect 2708	2万1000円～
PowerConnect 2716	4万0950円～
PowerConnect 2724	5万1450円～
PowerConnect 3424	5万6700円～
PowerConnect 3424P	8万8200円～
PowerConnect 3448	7万8750円～
PowerConnect 3448P	12万0750円～
PowerConnect 5324	11万8650円～

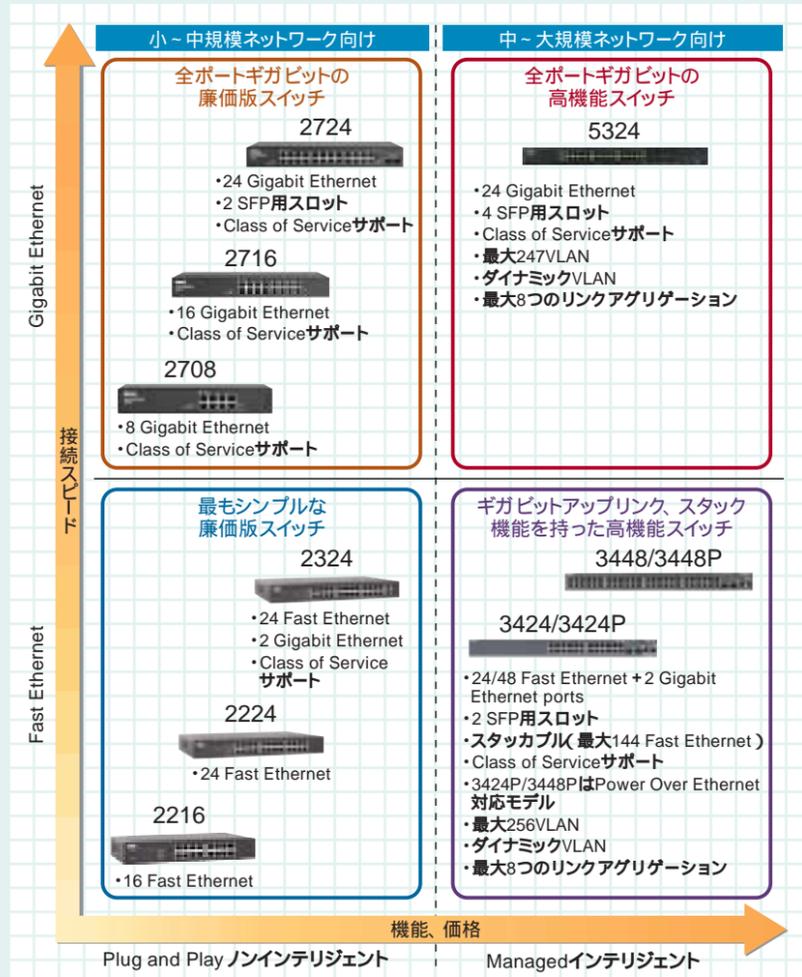
「安くても良い製品」であることは、これまでの説明とPCでの実績が物語っている。

表はPowerConnectシリーズの価格である。かなり安価であることが分かる。特に48ポートのPoEサポートモデル(3448P)は12万円強であり、大手ネットワーク機器メーカーの同等の製品より5分の1程度に抑えられている。

浦上マネージャーは、「PowerConnectはSI/NIにIPテレフォニーのエッジ製品として扱ってほしい」と語る。「なかでもPoEはIP電話機や無線LANアクセスポイントなどのエッジにだけ必要な機能であり、SI/NIのエッジソリューションに推したい製品だ」という。

今後の展開だが、「近いうちにレイヤ3スイッチを投入する。これにより、レイヤ2スイッチと合わせて構内ネットワークはデルの製品だけで構築できるようになる。また、レイヤ3スイッチは10Gもサポートする予定であり、標準化がなされた技術をサポートしていく方針には変更はない」と浦上マネージャーは語っている。

図 PowerConnect製品のポジショニング



お問い合わせ先 **DELL**
デル株式会社
 TEL : 044-556-6050
<http://www.dell.com/jp>